
オレって！〇〇と大天使の子供なの!?

羅伊牙

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

オレって！○○と大天使の子供なの！？

【Nコード】

N5609R

【作者名】

羅伊牙

【あらすじ】

侑斗はある少年と出会い自分の正体知っていく…

そして侑斗にはどんな宿命を背負っていくのか…

初めてなのでわかりずらいかも…

少年との出会い

世界は一つあればいい。だから破壊しよう 天界も人間界も

「またこの夢か… ったく漫画の読みすぎか？ 何回目だよ」

時計を見ると4時44分…

「奇跡だな…」

オレ（冴島 侑斗）は普通の高校生だ。 自慢は陸上で全国大会3位ってこと。 自己紹介は終わりでいいだろう。

こんな世界なんてつらない。 それはいつも侑斗が思ってることだった。

前をみるとクラスで一番力持ちな奴が弱い奴をいじめている。
「やっぱこんな世界なんてつらない。」

「とめないのか？ あれはいじめってやつだろ」
前を見ると30?くらいの少年がいた

「……なんで俺が？ とゆうかお前人間…じゃあないよな？翼はえてるし…」

その少年は俺の反応に興味を持ったみたいだった

「よくわかったな まあ僕が人間かどうかなんてどうでもいいこ

とだ。そんなことより、お前あのいじめとめてこい」

「ヤダよ。」

「いいからいけ。あのいじめ止めたら、僕の正体教えてあげる」

少年はにやけながら言った。

少年の正体にはたいして興味はなかったが侑斗は話しにのってやることにした。「わかった。あいつをボコればいいんだな笑」

侑斗はにやけながら言った。(少しは暇潰しになればいいが)

侑斗はいじめをしている隆太にちかずいて行く。その後ろ姿を謎の少年は口元に笑いをうかべながら見ている。

侑斗が隆太の目の前にいくと隆太が手を止めた。どうやら侑斗が気になるらしい。二人は見つめ会う。先に口をひらいたのは隆太だった。

「なんだよ？ 文句でもあるのか？」

隆太が睨み付けた。侑斗の意味不明な行動がうざかったのだろう

「ねえ、そのいじめやめてくれる？」

侑斗は笑顔で言った。今の一言が隆太の怒りを爆発させたらしい。

隆太の拳が侑斗の顔面に向けられる

それを待っていたかのように侑斗はそのパンチをかわす。隆太は侑斗の俊敏さに一瞬戸惑いを見せたが、それを隠すように次々とパンチをくりだす。

何発うつただろうか？隆太のパンチが少しずつではあるが鈍くなってきた。侑斗はその隙を見逃さなかった隆太のパンチを手で受け止めると隆太のみぞおちに一発パンチを食らわした。

誰もがこれでこのけんかは終わったと思った。

しかし侑斗の動きは止まらず永遠と隆太を殴り続ける…

「あちゃ〜覚醒しちゃった。」

翼のはえた少年が不気味に呟いた。

そんな侑斗が見て一人の男の子が口を開いた。

「もうやめろよ！隆太しんじやうよ…」

でも侑斗の動きは止まらない。いつしか侑斗の顔には笑顔が見えていた…

少年との出会い（後書き）

どうでしたか？超初心者なのでわかりづらいことも多かったのですが頑張って作りました。面白いと思っただけなら最高です！）面白くなかったらすいませんでした（

これからも頑張って行きます!？

自分の正体（前書き）

クラスのいじめをとめるだけのつもりが… 侑斗はこれからどうなるのか？

自分の正体

クラスメイトが次々と叫んでいるのが侑斗には聞こえていた。
（俺だってやめたいよ… けど体が止まらないんだよ。誰か止めてくれ！）

そう侑斗が口に出そうとしても、口からは笑い声しか出ない。
そんな侑斗を見ていたあの謎の少年がとうとう動き出した。
「ブラウ」

少年が呟いた。その瞬間！侑斗の動きが止まった。

なんだ！ 侑斗は困惑する。体がまったくもって動かない… それに動けないのは侑斗だけではないみたいだった。

「グラウ」

また少年が呟いた。その瞬間この光景を見ていた全員が倒れた…

「行くよ。」

少年が侑斗に言った。侑斗の体は動けるようになっていた。侑斗は思わず叫んでいた。

「お前なんなんだよ！」

「それを今から教えに行くんでしょ？ 屋上でいいかな？」

侑斗はもうついていくしかないことを確信していた。

屋上は普段立ち入り禁止だから人は来ない。

侑斗は待ちきれなくて屋上につくなり少年に言った。

「お前の正体について全て教える」
すると少年は語りだした。

「まず僕の名前はコーガ。簡単に言うと僕は君の見張り役の天使

なんだ。君が天界から人間界に来たときからずっと君を監視していた。そして君が15才になる今日、僕は君の監視を終わる。」

「ちよつと待てよ！」

耐えきれず侑斗は叫んだ。

「監視つてどうゆうことだよ！天界から来た？俺はあの家の本当の息子じゃないのかよ！？」

侑斗はもう何も考えられなくなっていた。しかしそんな侑斗を気にすることもなくコーガは話を続けた。

「僕は君が天界にいたころの記憶を思い出さないように監視していたんだ。あと君が殺されないように。」

単刀直入に言う君は大天使の息子なんだ。大天使つてのは人間界で言う天皇と総理を合体した感じなんだけど…大天使様は「大天使になるものは人間界も気にしなくてはならない。悪魔から人間界を守るのも大天使の仕事だからな。だからワシは我が息子ユートが人間界で成人になるまで暮らせようと思う。だからコーガお前ユートが天界の記憶を思い出さないように監視してくれんか？あと悪魔から守ってくれるとありがたい。」

つてことで僕は君の監視をしていたんだ。そして君は今日天界で言う成人になる。だから僕は君の監視をやめる。が、君はまだ天界に帰ることはできない。」

「何で？」

ユートはもう冷静さを取り戻していた。

「君は今まで闘いを体験したことはないだろう？」

「あるわけないだろ、俺は今まで天使だったこと知らなかったんだから。」

「でもさっきあの隆太つて奴とケンカしてどう思った？」

ユートはさっきのことを思い出してみる…

「たしか…隆太を殴っている自分が止まらなくなった…」

「そうだ。君はまだ力の抑え方を知らない。だから君の中の闘いの

本能でしか隆太を殴れなかった。あのとき君の体は君の意思なんか関係なく隆太を殴っていたんだ」

「そついえば…？　何で今闘いの話なんだ？」

この質問にコーガは驚いたようだった。

「何で？　君は悪魔に命を狙われているんだよ？　まあいいや。とりあえずこれから僕が君に闘い方を徹底的に叩き込んでやる。」

自分の正体（後書き）

楽しんでいただけたでしょうか？もし楽しんでいただけたら嬉しいです。面白かったらまた読んでくださいね

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5609r/>

オレって！〇〇と大天使の子供なの!?

2011年10月8日17時36分発行